

# 愛 媛 の 家 計

— 2 0 0 3 年家計調査報告書 —

社団法人 愛媛県労働者福祉協議会  
えひめ勤労者生活情報センター



## は じ め に

「来年の予算を立てるため、今年の家計簿をぱらぱらとめくっていると昨年の家計より、今年はスリムになっていることに気がついた。今年は家族が1人増えた分、支出も増えると考えていただけにうれしかった。努力が実を結んだ気がしました。来年ももっとがんばって節約しようと心に誓いました。家計簿をつけ続けてよかったです。」

この文章は、昨年12月にモニターさんから寄せられたメッセージです。本調査に協力いただいている多くのモニターさんは、長く続く深刻な不況の中で、“賢い生活者”をめざし、日々の生活のあり方を真剣に考えています。

社団法人えひめ勤労者生活情報センターが、愛媛県内の実態生計費の調査をはじめて8年が経過しました。この調査の目的は、「各世代の家計の特徴および生活様式の変化と問題点を把握するための基礎的データを作成する」ことにあります。

本報告書は、2003年1月から12月までの1年間の調査結果をとりまとめたものです。このデータをもとに、現在の「生活問題」を考え、そして変えていくために、さまざまな面から活用いただければ幸いです。

調査を実施するにあたって、ご協力をいただきましたモニターさんをはじめ、関係各位にあつく御礼を申し上げます。

2004年3月

社団法人 愛媛県労働者福祉協議会

えひめ勤労者生活情報センター

理事長 桧垣嘉照

# 目 次

はじめに

I 調査要項と調査世帯の概要	4
II 全世帯の家計収支	8
III 世帯主の年齢階級別家計収支	16
IV 世帯主の職種別家計収支	19
V 世帯人員別家計収支	22
VI 住宅ローン返済世帯の家計収支	25
VII 1世帯当たりの教育費	30
VIII 交通・通信費について	32
IX 介護保険料について	34
X 貯蓄について	36

## 2003年家計調査集計表

表 1 全世帯月別家計収支	
1 調査対象世帯の属性	40
2 月平均家計収入	40
3 月平均家計支出	42
表 2 世帯主の年齢階級別月平均家計収支	
1 調査対象世帯の属性	44
2 世帯主の年齢階級別家計収入	44
3 世帯主の年齢階級別家計支出	45
表 3 世帯主の職種別月平均家計収支	
1 調査対象世帯の属性	46
2 世帯主の職種別家計収入	46
3 世帯主の職種別家計支出	47

表 4	世帯人員別月平均家計収支	
	1 調査対象世帯の属性	48
	2 世帯人員別家計収入	48
	3 世帯人員別家計支出	49
表 5	地域別月平均家計収支	
	1 調査対象世帯の属性	50
	2 地域別家計収入	50
	3 地域別家計支出	51
表 6	住宅ローン返済の有無および住居状況別家計収支	
	1 調査対象世帯の属性	52
	2 住宅ローン返済の有無および住居状況別家計収入	52
	3 住宅ローン返済の有無および住居状況別家計支出	53

#### 費目分けの説明

#### 調 査 票

# I 調査要項と調査世帯の概要

## 1 調査要項

### (1) 調査目的

愛媛県内の家計の実態を継続的に調査することにより、各世代の生活諸問題に対する対策のための基礎資料を作成する。

### (2) 調査機関 えひめ勤労者生活情報センター

### (3) 調査世帯

愛媛県に在住する世帯

### (4) 調査事項

主な調査項目は次のとおりである。

- ①毎月の収入
- ②毎月の消費支出
- ③毎月の非消費支出
- ④毎月の特別支出および特別収入
- ⑤毎月の預貯金額
- ⑥毎月の借入金返済額

### (5) 調査時期 2003年1月～12月

### (6) 調査方法

調査票の配布、回収とも郵送、毎月回収、自記入方式

### (7) 2003年1月～12月の回収状況

単位：世帯

年間延べ回収数	月回収平均値	最高月回収数	最低月回収数
2,185	182.1	193	168

## 2 調査世帯の概要

本調査は、愛媛県内に在住する世帯を無作為に抽出し、調査票を配布・回収したものである。回収した調査票のうち、集計および分析の対象となりうる有効調査票は年間延べ2,185件であった。

以下、調査世帯の基本的属性および特徴について概説する。

### (1) 調査世帯の地域別構成と世帯主の年齢別構成

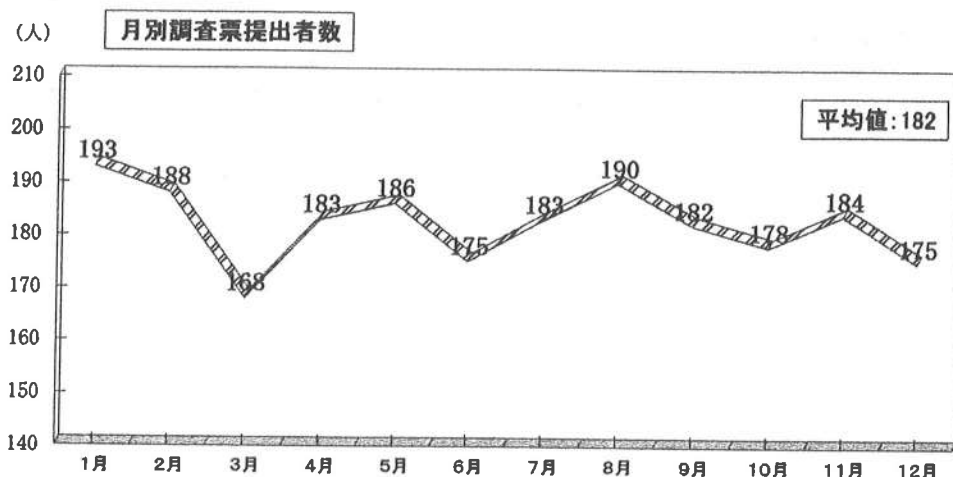
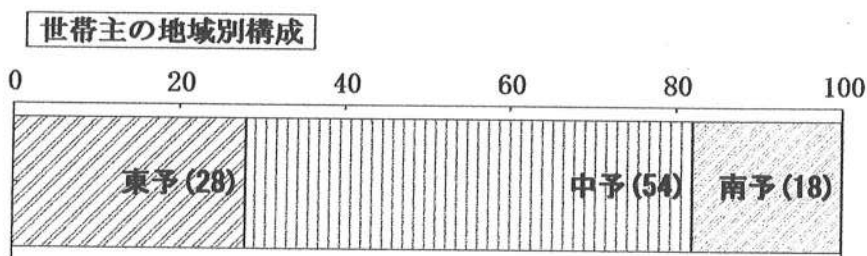
有効調査票の月平均は182件で、そのうち東予が50件、中予が99件、南予が33件である。したがって、全体構成では、東予が27.7%、中予が54.1%、南予が18.2%となっている。前年調査では、東予が28.0%、中予が51.0%、南予が21.0%であったので、2003年は南予がやや少なめであるが前年調査と大きな較差は無い。

月々の調査世帯数の変化をみると、1月が最も多くその後減少傾向になっており、3月が大きく落ち込んでいる。6月と12月が175であるが、その他の月は185前後を推移している。提出状況は、1月と3月を除けばやや安定的である。

同一世帯の提出があまりにもアンバランスで、年間提出数が少ない調査票については、削除させていただいた。これらの調査票は提出件数にカウントしていない。

提出者数(有効調査票数)が去年より月平均で12.7件増加しており、前年調査対象者の約2割が入れ替わっている。

調査票記入データも正確になり、県内の一般的な家計行動分析の資料としてはかなり充実してきている。

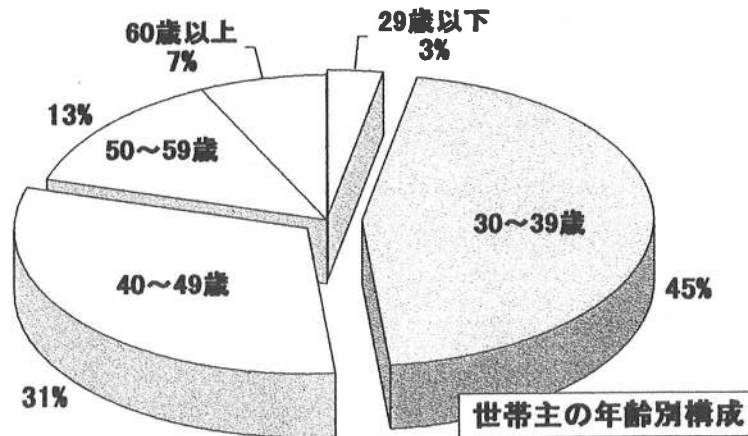


世帯主の年齢別調査票提出者数(月平均)は、「29歳以下」:6世帯、「30～39歳」:81世帯、「40～49歳」:57世帯、「50～59歳」:24世帯、「60歳以上」:13世帯である。構成比で見ると、年齢層の若い順に約3%、45%、31%、13%、7%である。したがって、最も多い年齢層は「30～39歳」で全体の半分近くを占めており、この傾向は前年と同じである。「30～39歳」と「40～49歳」を合わせると、76%であり、したがって約8割近くが中年層である。

世帯主の平均年齢は42.7歳である。前年は41.4歳であったので、前年よりやや高めである。

世帯主の年齢別構成(2003年)

	全世帯数	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
提出者数(月平均)	182	6	81	57	24	13
構成比(%)	100	3	45	31	13	7



(2) 生計を共にする家族数と家族構成

調査世帯の平均家族数が3.7人である。

1人家族はごく少数で、2人家族が月平均約26世帯、3人家族が約43世帯、4人家族が75世帯、5人以上世帯が約36世帯である。

1人家族を別にして構成比を見ると、2人家族が14.4%、3人家族が23.8%、4人家族が41.7%、5人以上世帯が20.0%である。

2人家族の内訳は「29歳以下」:6.9%、「30～39歳」:15.0%、「40～49歳」:16.3%、「50～59歳」:17.6%、「60歳以上」:44.1%である。したがって、2人家族は世帯主が50歳以上に多く若年層に少ない。

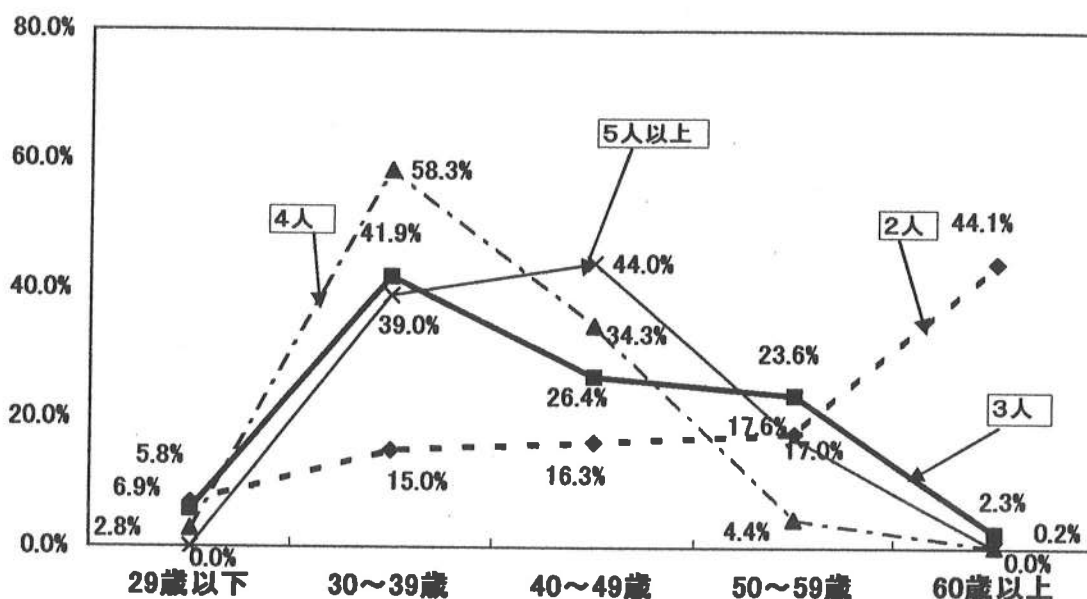


3人家族の内訳は「29歳以下」:5.8%、「30～39歳」:41.9%、「40～49歳」:26.4%、「50～59歳」:23.6%、「60歳以上」:2.3%である。したがって、世帯主が「30～39歳」で最も多く、その後年齢が高くなるにつれて少なくなっている。

4人家族の内訳は「29歳以下」:2.8%、「30～39歳」:58.3%、「40～49歳」:34.3%、「50～59歳」:4.4%、「60歳以上」:0.2%である。したがって、世帯主が「30～39歳」で最も多く、この年齢層の6割近くを占めている。

5人以上家族は2世代家族が多く、世帯主の年齢構成が「30～49歳」と「40～49歳」層で9割余りを占めている。

家族人数別世帯主の年齢構成



(3) 世帯主の居住状況

居住状況を構成比で見ると、最も多いのは「自分の家に住んでいる人」で、全体の68.3%である。続いて多い順に、「民間賃貸」16.3%、「社宅・官公舎」12.3%、「公営賃貸」3.2%である。

(4) 世帯主の職業

世帯主の職業で最も多いのは、「会社員」(74.9%)である。続いて多い順に「公務員」(13.0%)、「無職」(6.4%)、「自営業等」(5.8%)、である。

世帯主の職種状況(2003年)

	月平均	公務員	会社員	自営業等	無職
月平均世帯数	182.1	23.6	136.3	10.6	11.6
構成比(%)	100.0	13.0	74.9	5.8	6.4

## II 全世帯の家計収支

### 1 全体の概要

月平均家計収支の推移(2000年～2003年)

		2000年	2001年	2002年	2003年
対 象 者	調査票提出世帯数	170	166	169	182
	世帯主年齢(歳)	41.3	42.0	41.4	42.7
	平均家族数(人)	3.9	3.8	3.8	3.7
収 入	実 収 入	577,262	573,497	538,961	538,709
	給 料 (夫)	346,025	359,133	331,967	328,302
	賞 与 (夫)	96,127	96,620	85,405	83,119
	妻の給料・賞与 自家営業収入 公的・私的年金など	113,486	94,622	98,657	104,157
	その他の収入	21,624	23,122	22,932	23,130
支 出	実 支 出	514,358	505,904	484,888	480,217
	消 費 支 出	359,479	351,587	335,629	333,740
	食 費	61,523	60,145	57,187	55,926
	住 居 費	68,919	65,962	66,372	66,472
	水・光熱費	16,274	16,267	16,698	15,699
	被 服 費	17,917	16,620	14,837	14,660
	保 健 医 療 費	7,358	8,425	8,026	9,136
	理 容 衛 生 費	8,577	8,584	8,032	8,405
	交 際 費	21,433	20,952	17,501	19,622
	交 通 (通 信) 費	13,868	14,693	4,196	4,637
	通 信 費	—	—	12,140	12,647
	教 育 費	46,014	44,419	40,359	36,277
	教 養 娛 楽 費	21,359	20,794	20,639	21,009
	職 業・主 婦 費	40,197	38,634	36,216	35,065
	自 動 車 関 係 費	24,070	23,923	22,891	23,187
	そ の 他 消 費 税	6,477 5,493	6,507 5,665	5,120 5,413	5,945 5,052
非 消 費 支 出	154,879	154,318	149,260	146,478	
税 金	34,218	34,853	31,060	30,025	
社 会 保 険 料	53,095	53,355	52,403	55,681	
私 的 保 険 料	60,762	54,058	56,598	51,985	
その他の非消費支出	6,804	12,051	9,199	8,787	
可処分所得	422,383	419,179	389,701	392,231	
平均消費性向	85.1	83.9	86.1	85.1	
積立・定期預貯金	71,582	63,029	54,438	58,836	

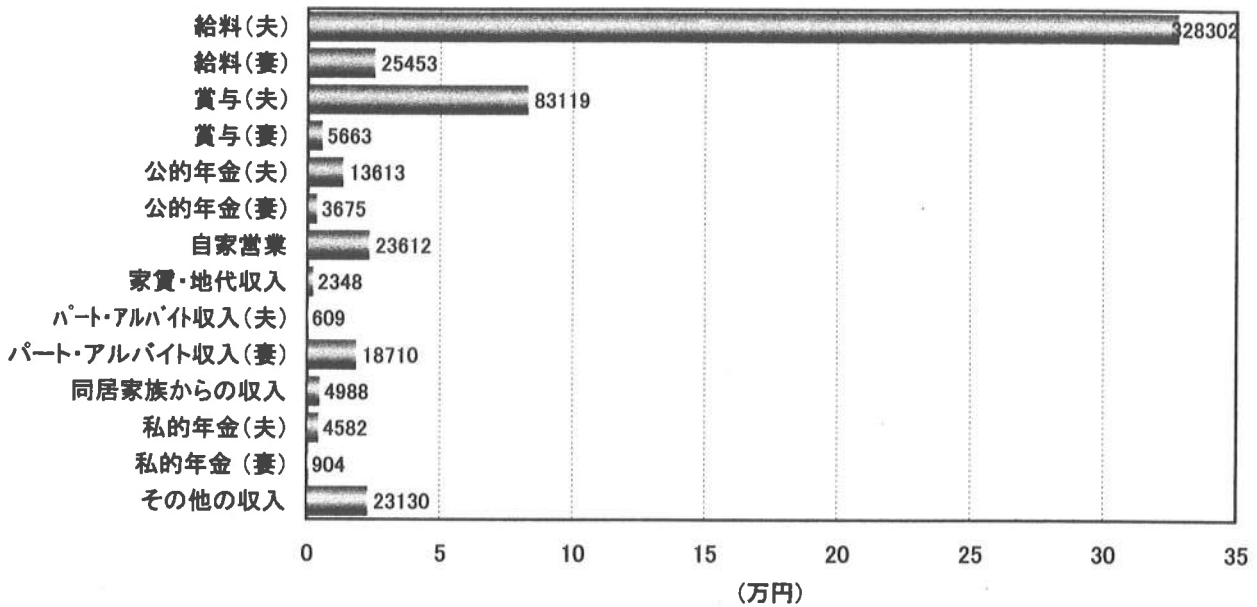
(1) 2003年に家計調査の調査票を提出し、かつ集計可能だった世帯数は月平均182世帯で、世帯主の平均年齢は42.7歳、その平均家族数は3.7人である。

(2) 全世帯の実収入は、1世帯当たり月平均538,709円で、前年と比べ252円の減少となった。実収入は1999年以降5年連続の減少である。

実収入の内訳で最も大きい額は「給料(夫)」が328,302円、ついで「賞与(夫)」が83,119円(年間換算997,428円)であるが、対前年比で「給料(夫)」が3,665円(1.1%)の減少、「賞与(夫)」が2,286円(2.7%)の減少であった。また、自営業収入は23,612円で前年と比べ4,907円(17.2%)の減少であった。これらの減少にともなって実収入全体の減少をもたらしている。

「給料(夫)」と「賞与(夫)」は2001年をピークに

**実収入の内訳(2003年)**  
実収入538709円



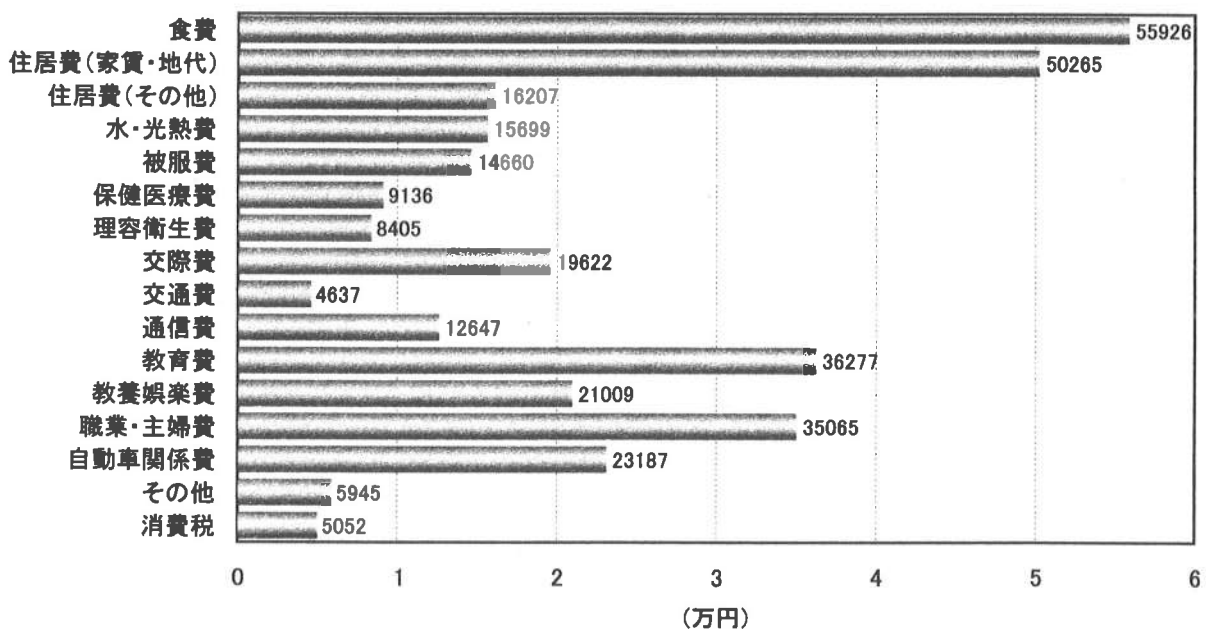
して下がりはじめており、とくに賞与は2年間で14%減少している。

一方、前年と比べ増加した収入科目は、「私的年金(夫)」の4,582円(4,393円増)、「給料(妻)」の25,453円(2,953円増)などであり、「パート・アルバイト収入(妻)」も若干増加している。

(3) 支出は消費支出と非消費支出ともに減少し、その結果、実支出も減っている。

まず、消費支出は、1世帯当たり1か月平均333,740円であり、前年と比べ1,889円減少し、2000年以降減少傾向が続いている。

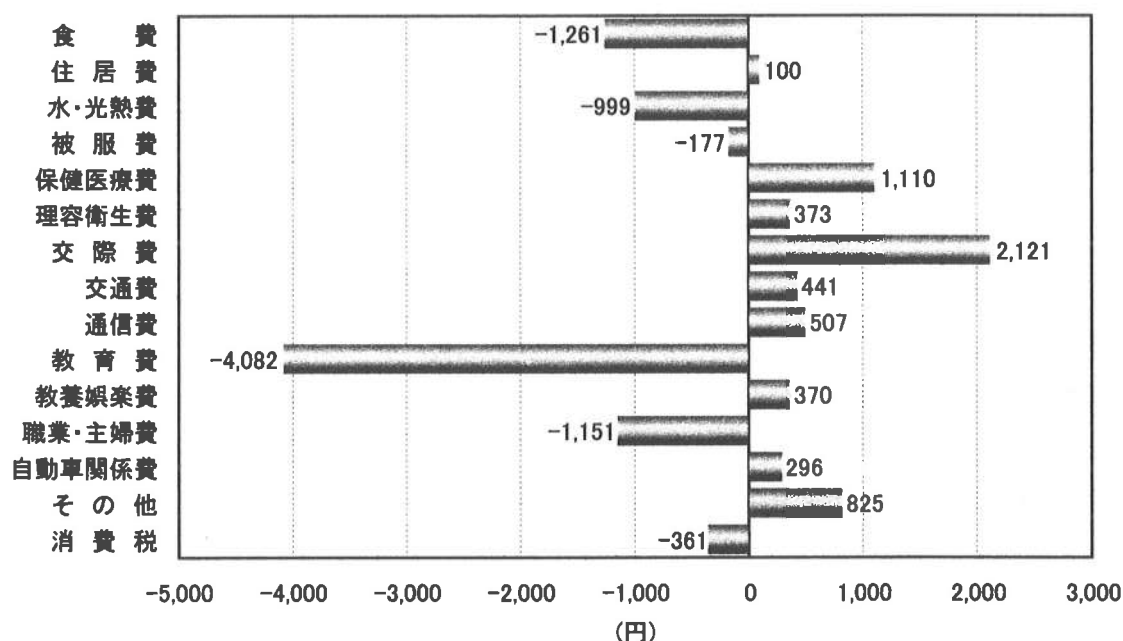
**消費支出の内訳(2003年)**  
消費支出333740円



消費支出の内訳を支出額の多い順に科目をあげると、次のとおりである。

①食費55,926円(前年との増減額は1,261円減。以下同じ)、②住居費(家賃・地代)50,265円(2,023円減)、③教育費36,277円(4,082円減)、④職業・主婦費35,065円(1,151円減)、⑤自動車関係費23,187円(296円増)、⑥教養娯楽費21,009円(370円増)、⑦交際費19,622円(2,121円増)、⑧住居費(その他)16,207円(2,123円増)、⑨水・光熱費15,699円(999円減)、⑩被服費14,660円(177円減)、⑪通信費12,647円(507円増)、⑫保健医療費9,136円(1,110円増)、⑬理容衛生費8,405円(373円増)、⑭その他の消費支出5,945円(825円増)、⑮消費税5,052円(361円減%)、⑯交通費4,637円(441円増)である。

### 消費支出の対前年増減額(月平均額)



消費税は、本調査では外税でかつ可能な範囲で記帳するという制約があり、実態より低くなる傾向をもっている。それでも1世帯あたり平均月額5,052円で、年間額に換算すると60,624円であり、実態はこの額をさらに上回るであろう。

(4) 消費支出のうち、4年間一貫して低下を続けている科目は、食費、被服費、教育費、職業・主婦費などで、家計支出を切り詰めている実態が明確である。

なお、増加の傾向がみられるのは通信費であり、携帯電話等の影響と考えられる。

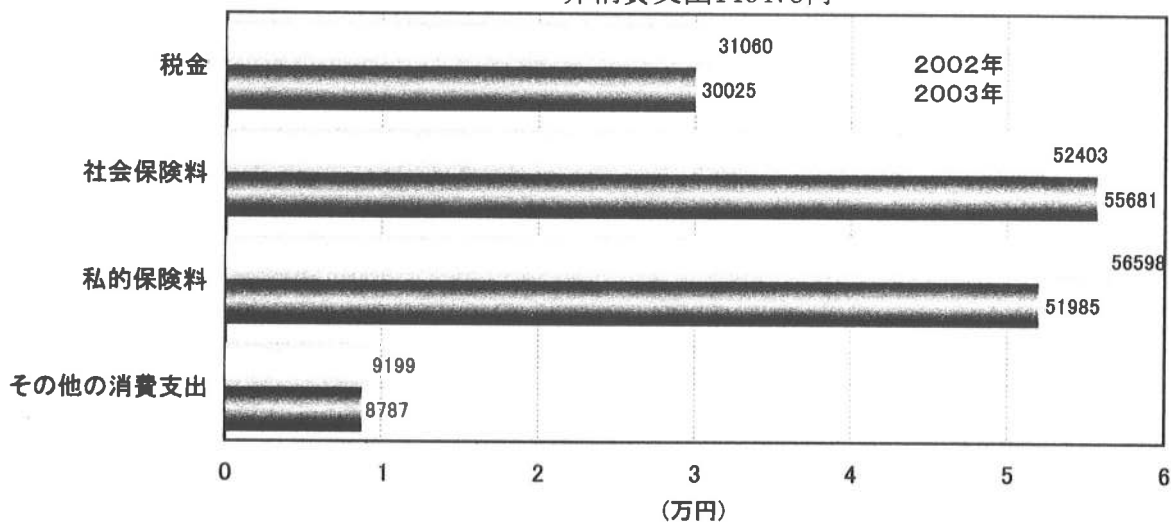
(5) 非消費支出は146,478円で、その内訳をみると、税金が30,025円(前年比1,035円減)、社会保険料が55,681円(同3,278円増)、私的保険料が51,985円(同4,613円減)、その他の非消費支出が8,787円(同412円減)となっている。

非消費支出が下がっているのは、2003年から社会保険料が増額になった一方で、収入減にともなう税金の低下もみられるが、何よりも私的保険料を切り下げていることが最も大きな要因である。

なお、私的保険料の内訳は、損害保険が5,835円、生命保険が41,147円、その他が5,003円である。

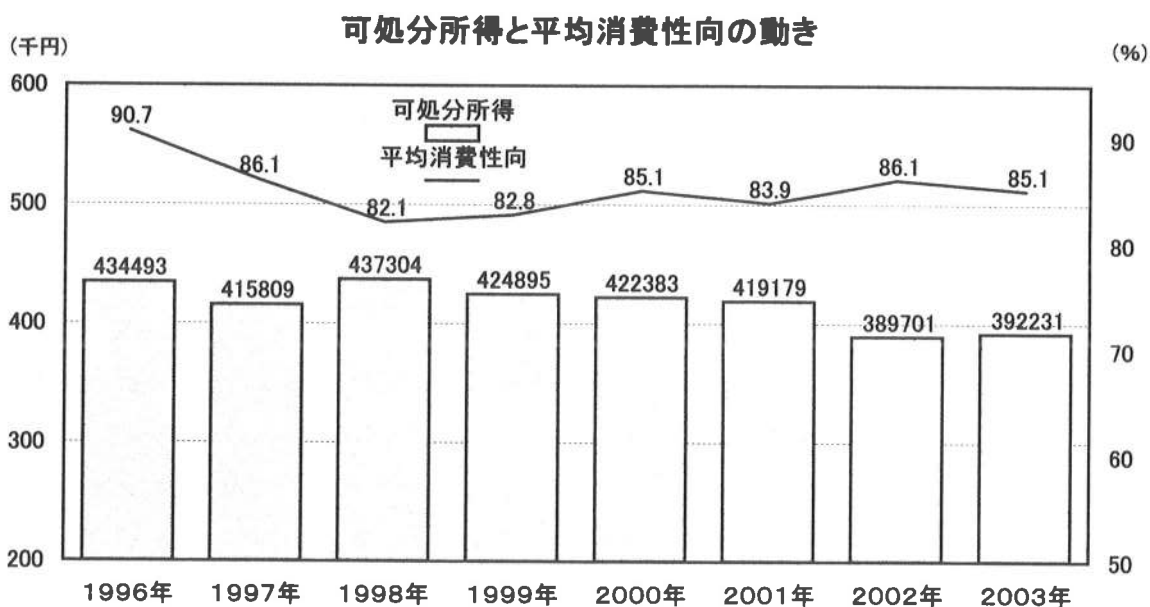
実収入に対する非消費支出の割合は27.2%、実支出に対する非消費支出の割合は30.5%に達している。

非消費支出の内訳と対前年比較  
非消費支出146478円



(6) 可処分所得(実収入-非消費支出)は392,231円で、前年と比べて2,530円の増加となった。しかし、ここ8年の可処分所得の動きをみると、1988年以降、全体として低減傾向を示しているといえるであろう。

また、平均消費性向(可処分所得に対する消費支出の割合)をみると、2003年は85.1%で、1998年の82.1%をボトムにして、その後、微増をたどりながら横ばい傾向にある。



## 2 考 察

以上のように、近年の景気動向を如実に反映して、家計収入・支出ともに年々、低下を続けていることが明らかである。

収支の差額をみると、実収入が実支出を58,492円上回っており(実収入538,709円－実支出480,217円)、実収入から積立・定期預貯金を引いた額(538,709円－58,836円＝479,873円)が実支出に見合う額となっている。

しかし、実収入のうち月平均の「賞与(夫)」が83,119円であるから、実収入からその額を差し引いた月の収入は455,590円となり、毎月24,627円のマイナスである。したがって、毎月のマイナス部分をボーナスで補填し、収支のバランスを維持しているのが実状である。

このことは、世帯主の年齢別、職種別などでみても同様で、また、調査開始以来の共通した傾向であることが指摘できる。

ここ4年間の消費支出の推移をみると、モニターの世帯主の年齢等を勘案しても、消費支出は確実に低下傾向を示している。前述したように、とくに支出を押さえている科目は、食費、被服費、教育費、職業・主婦費などであり、「長期不況」のなかで消費を切りつめていることが浮き彫りになっている。

以下、家計の実態および非消費支出の家計にしめる圧迫感等について、2003年のモニターからの「メッセージ」の一部を紹介する(「メッセージ」が書かれた時期は、末尾に記載の「通信」発行年月よりもおよそ2か月前のものとして理解されたい)。愛媛の現在の生活問題を考えるうえで、家計についての貴重な「感想」が寄せられている。

★ はじめてのモニターです。今年1年よろしくお願ひ致します。毎年1月は出費が多く頭の痛いスタートとなります。今まで大ざっぱなやりくりでしたが、これを機にしっかり家計を見直そうと思ひます。(38歳) [No.85 2003年3月号]

★ 家計簿をつけてみて改めて思ひ知るのは、社会保険料がいかに高いかである。我が家の場合、主人が前年度退職したうえ、2人とも40歳以上で、介護保険料もついて、月々58,600円も引かれている。まあ、来年度からは健康保険料が少し減るだろうが。一番気になるのは、国民年金を払い続けて本当に自分たちは年金

を受け取ることができるかである。

(40歳) [No.86 2003年4月号]

★ こんなにきちっと家計簿をつけたことがなく、消費税をたくさん払っていることにビックリしました。夫の給料も手取りしか知らなかったのも、税金がこんなに高かったなんて驚きの連続です。(32歳) [No.86 2003年4月号]

★ 息子はいつも2人の姉のおさがりか、よそからめぐってきたお古を着ています。小学校入学式のスーツもかなり古いスーツをいただいたのでそれですませるつもりでしたが、バーゲン半額で良い品を見つけたので購入しました。卒園

式、入学式とわずか2度のためにとケチッていましたが、「これオレの？やったあ」と大喜びの顔を見たらフンパツして良かった！と思いました。(中略) (37歳) [No.87 2003年5月号]

★ 新学期が始まり、子供たちも新たな気持ちで張り切っているこの頃。成長とともに出費も増え、頭を抱えながら家計簿をつけています。今年学校、幼稚園、スポーツ少年団、地区の公民館の4つの役員が回ってきて交際費もかかってしまいそう…。子供のためにも大切なお付き合い。でも、年に数回ある「飲み会」ってPTAに本当に必要？家計に無理のないように上手に無難にやっていかななくては、と思っています。

(35歳) [No.88 2003年6月号]

★ 今月は固定資産税や自動車税の支払いがあったため赤字になりました。先月は主人の飲み会代で赤字。あ～あ、ため息ばかりですが、少しでも食費のたしになればとプランター菜園をはじめました。水をあげて、ながめている時が幸せ。早く大きくなあれ。

(40歳) [No.89 2003年7月号]

★ (中略)保険を夫婦で見直すことにした。必要なものだけのシンプルな保険に切り替えたなら、掛け金が1/3に減り驚いている。今は色々な保険が出ているので、きちんと見直し勉強する必要があると実感した。

(31歳) [No.90 2003年8月号]

★ 社会保険料のボーナス分が増えるという知識はあったけど、実際に支給されて、びっくり！手取りが昨年より10万円近くも少ない！支給明細を確認して「支給総額」は減っていないことで安心したのも束の間、「一般保険、厚生年金、年金基金、雇用保険、所得税」の合計額が73,638円もupしている。(中略)毎月の生活費を抑えていかないと冬に困るのは明白！どこまでや

りくりできるのか、家計簿とにらめっこする時間を確保せねばなるまい…。

(42歳) [No.90 2003年8月号]

★ 息子が20歳になり、国民年金加入申込書が届いた。でも、大学生なので、払わなくても済む手続きをする。若者でも、払ってない人が多いと聞くが、働けるようになったら払って、皆で世の中支えあって生きてほしい。

(47歳) [No.91 2003年9月号]

★ 毎月の保険料が少なくなっても賞与から引かれる額が多くなって、何となく損した気分になるのは私だけでしょうか。厚生年金も払った分もらえるかどうか不安だし、健康保険だって健康なら払うだけで…この先何があるかわからないから、仕方ないのかなあ。

(49歳) [No.91 2003年9月号]

★ 今月は遅れていたボーナスが入ったが、前年より下がりますます厳しくなっている。計算上、貯金はできているが、子供の後期授業料に消えてしまい、住宅ローンのボーナス払いは預金をくずしての支払いとなった。我が家では今が一番たいへんな時期なので、節約にとめなければと思っている。

(46歳) [No.92 2003年10月号]

★ 家計簿をつけ始めて10ヵ月。初めて赤字にならなかったのが嬉しかった。今年に入って給料が5万円位手取りで減り、家計のやりくりが四苦八苦。去年までの生活とうって変わって節約に転じたが、子供の幼稚園代のなんと痛いことか…。バブル期にいい思いをしている民間を横目に、公務員の給料は上がり、今は不況だ、不景気だと民間に追随して、給与もベースダウン。一体「公務員は給料がいい」なんて言われるいわれは何なのか…。

(36歳) [No.94 2003年12月号]

★ 来年の予算を立てるため、今年の家計簿をばらばらとめくっていると昨年の家計より、今年はスリムになっていることに気がついた。今年は家族が1人増えた分、支出も増えると考えていただけにうれしかった。努力が実を結んだ気がしました。来年ももっとがんばって節約しようと心に誓いました。家計簿をつけ続けてよかったです。(30歳) [No.95 2004年1月号]

★ 残り1ヵ月となりました。あと3年位で完全に年金生活になる予定なので、今から家計管理をしっかりしようと思って始めましたが…。まあまあ真面目にできたし、お金の流れや生活費以外にかかるお金もよくわかったので、1年目としては合格点かな！ ありがとうございます。

(54歳) [No.95 2004年1月号]

★ 冬のボーナスが支給されました。2年ぶりくらいでしょうか…。これで子どもの学資保険(年払い)を支払っても余裕がある金額でうれしかったです。事情があって貯蓄には回せないけど、気持ちに少し「ゆとり」ができたようです。

(37歳) [No.96 2004年2月号]

★ 1年間の集計をして収支(収入計-支出計)64,970円。1ヵ月にしてたったの5,414円びつくり！ 耐久消費財747,893円+消費税37,464円のせいでしょうか。もうこれで買い物終わりと思ったら、年末、エアコンが動かず、またしても112,000円出費。あーあービデオもおかしいけれど来年にのばす。耐久10~15年は早いです。せめて20年耐えて欲しいと思うのは欲かしら。

(56歳) [No.96 2004年2月号]

### 3 2002年の月別傾向

- (1) 1世帯当たりの実収入は、通常の前月は40万円台半ばで推移しているが、6月が710,596円、7月が688,216円、そして12月が986,971円となっている。これは、これらの月が公務員・会社員の賞与受給月にあたるためである(「賞与(夫)」は6月227,400円、7月241,470円、12月469,014円)。「給料(夫)」は、年間をとおして32万円から34万円で推移している。

月別家計収支(2003年)

